

こんな時代にロシア語のすすめ 第7回

「ペルシア語を目指してロシア語？」

黒田 龍之助



「ロシア語を知っているとほとんどわかってしまうベラルーシ語」

4月です。外国語を始める季節ですね。この春はロシア語を学んでみませんか。

……というような話題を考えたのですが、この先がどうしても浮かびません。似たような話をあちこちで書き散らしていることもあるんですが、それ以前にロシア語を巡る状況は悪化するばかりで、明るい話題が見当たらず、気分がどうにも乗らないことも原因です。

ロシア語の人気の微妙なのは、何もいま始まったことではありません。今年は最底辺だけど、来年こそはよくなるに違いない、いや、これ以上は下がるはずがないのだと、自分を励ますこと数十年。その期待はいつも見事に外れ、最底辺と思われた翌年がさらに落ち込むという、ほとんど底なし沼状態。嗚呼。

本音をいえば、人気は別にどうでもいいんです。負け惜しみじゃありません。世間ではメジャーな外国語、経済的に成長している外国語、明るくて華やかなイメージの外国語がもてはやされることは、分かっているのです。そうでない外国語を選んだことは、なんの後悔もしていません。

ただ、わたしはロシア語教師なんです。授業は教師と受講生で成り立つもの。受講生がいなくなったら、こちらは自動的に仕事なくなります。現に去年の秋学期、火曜2限のロシア語初級は受講生がひとり。このたったひとりの受講生がずば抜けて優秀で、楽しそうにロシア語を勉強してくれるのが唯一の救いでした。それにしても、一對一の授業は受講生にとって精神的に負担なはず。Sさん、最後までつき合ってくれてありがとう。次は中級で会いましょう。

そもそも「外国語のすすめ」って苦手です。わたしの担当する外国語を学ぶと、こんなにいいことがありますよとか、そういうのを喧伝するのってなにか違う。どんな外国語でも、勉強を続けていけば楽しいことが必ずあり、その点ではどの言語も平等なはず。

でもまあ、そんなことはいつてられないので、なにかメリットを考えなければ。

たとえばロシア語は話者人口が多い。かつてに比べれば減ってはいるものの、まだ1億人以上が話しているようですか

ら、世界的に見れば有力言語。さらには国連公用語だから重要だという考え方。大言語主義とでもいいでしょうか。

……う～ん、なにか虚しい。

ナントカ語は話者人口が多いから、さらには国連公用語だから、学んでおけば将来きっと有利になる。まるで先物取引のような危険な誘い。そういうのは嫌いです。だいたいわたしはロシア語だけでなく、あれこれいろんな言語を勉強してきて、それも教えるのが商売。その中には話者人口が1千万人とか、100万人とか、もっと少ない言語だってあります。だからといって、価値が変わるわけではありません。数の力でゴリ押しするのは、多様性の時代に反すると思うのですが、そんな風潮は相変わらず。再び嗚呼。

そういった大言語主義は嫌いです。それでも影響力のある言語の知識がなければ、勉強が難しい外国語もあります。

たとえばベラルーシ語。かつてベラルーシの首都ミンスクで、ベラルーシ語の夏季セミナーに通ったことがありました。30年近く前の話です。たった2週間でしたが、そもそもベラルーシ語はマイナー過ぎて、日本では教科書すらロクに手に入りませんでした。だから現地で学べたことは、大きな喜びでしたし、勉強も進みました。

ベラルーシ語には、他の外国語と違う事情が二つあります。

まずロシア語ができなければ勉強できません。ベラルーシ語の教材は、ベラルーシ語そのもので書かれたものを除けば、ほとんどがロシア語で説明されています。英語やドイツ語がほんの少しありますが、それはどちらかというと文法書で、しかもスラブ諸語の知識を前提としている、学術的な内容がほとんど。こういうときは、ロシア語ができて本当によかったと、つくづく感じます。

もうひとつは、ベラルーシ語しかできない人が、たとえベラルーシでもほぼいないことです。夏季セミナーでせっかくベラルーシ語を覚えても、一步街に出れば、そこはロシア語世界。市場でベラルーシ語を使ってみたら、売り子のおばさんから「なんだって？ちゃんと人間らしく話さないよ」といわれてしまいました。これが首都なんですから、悲しくな

ってしまいます。

ベラルーシ語とロシア語は、とても似通っています。そのため、どちらを使っても通じてしまうというのが現状です。ベラルーシ語に自信のないベラルーシ人も多し、たまに自信たっぷりの人がいても、そのことばに耳をじっと傾けてみれば、自分の故郷の方言を使っているのに過ぎないこともありました。コミュニケーションではそれでいいのですが、たとえば標準ベラルーシ語の文法書を書こうとしているときには、それでは困ります。

それでも、そのような状況が理解できたのは、ロシア語を通して多くの人から話を聴いたおかげでした。そもそもいくらベラルーシ語が流暢に話せても、ロシア語ができなければミンスクで生活することはできません。日本人には想像しがたいかもしれませんが、そういう現実があるわけです。

しかし、それもまた楽しいんですけどね。

20 年以上前にウズベキスタンを訪れたことは、これまで何度かお話ししました。そのとき首都タシケントの大学で、アメリカ人留学生に会いました。わたしがロシア語の授業を見学していたときの受講生のひとりだったのですが、話を聴いてみれば、彼が本当に学びたいのはペルシア語だということです！

一体どういうことなのか、詳しく聞いてみればこうでした。ペルシア語を志したのはいいものの、アメリカとイランの関係が当時（今も？）よろしくないで、留学できない。そこで似たような言語がないか探したところ、アフガニスタンのダリー語に近いことを知ったのですが、アフガニスタンは当時（今も？）外国人が勉強するどころではありません。そこでさらに探すと、タジキスタンのタジク語は文字こそロシア語と同じキリル文字ですが、文法構造は極めて近いという。しかしタジキスタンも当時（今も？）政情が不安定です。途方に暮れていたところ、ウズベキスタン西部でタジキスタンと国境を接する地域には、タジク語話者がいることを知りました。ウズベキスタンだったら留学ができます。でもそのためにはロシア語と、さらにはウズベク語ができないといけなないので、こうしてロシア語の勉強を始めたというのです。

壮大な話ですよ。でもこの青年は悲しむどころか、むしろいろんな言語を学べるのが楽しくて仕方がない、という感じだったのです。

こういうことはときどきあります。

たとえばわたしのゼミ生で、ヨーロッパ北部のフリジア語に興味を持っている学生がいるのですが、フリジア語を学ぶためにはオランダ語ができなければ、基本的な文献を読むこともできません。南アフリカのコサ語に興味を持っている元ゼミ生は、同じバントゥー語群に属するスワヒリ語を独学しながら、コサ語の文法を掴もうとしています。学習教材が限られている外国語を学ぶためには、このような遠回りをしな

ければならないことがあります。それなのに楽しそうに学習している姿を見ていると、忘れていたなにかを思い出した気がします。そうです、何語でもいいから、いっぱい勉強した方が楽しいんです！

4 月です。外国語を始める季節ですね。この春は何でもいいから、なにか学んでみませんか。



本の紹介

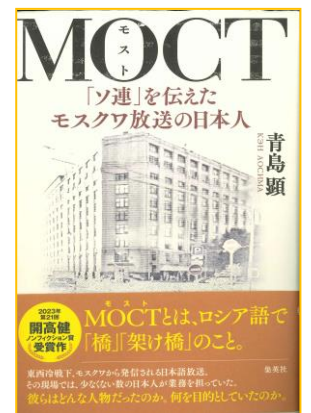
MOCT 「ソ連」を伝えたモスクワ放送の日本人 モスト

第 21 回 開高健ノンフィクション賞
受賞作

青島 顕 著
集英社

四六判 264 頁

価格 1980 円(税込)



「こちらはモスクワ放送です」。

米ソ冷戦の時代、毎日ラジオを通じて呼びかける声が届いた。雑音混じりで少し聞き取りにくかったけれど、それは間違いなく日本海を越えて社会主義国ソ連からやってくる日本語放送の声だった。

著者は高校生の時にたまたまモスクワ放送を聞いたという。アナウンサーが楽しそうに語るロシア語講座にひきよせられた。発音やイントネーションに不自然なところがない日本語に、「いったいどんな人が放送しているのか」と思う。

40 年後にこの謎に挑み、かつてモスクワ放送に携わった日本人たちの群像を描き出したのが本書である。

「MOCT」はロシア語で「橋」を意味する。本書を読むと、確かに日本とソ連（ロシア）の架け橋になろうとした人々の姿が見えてくる。

日本向けモスクワ放送は 1942 年に始まった。初期の日本語放送を支えたのはコミンテルンの活動家としてモスクワに滞在した日本の共産主義者やその家族たちだった。戦後、シベリア抑留の民主運動活動家でそのままソ連に留まった人たちが加わり、やがて 1970 年代や 80 年代には「何か新しいことをやってみよう」とか「学んだロシア語を活かして仕事をしたい」、「本当のソ連社会を見てみたい」と日本からも若者

が合流するようになった。

今やもう消滅し、「壮大な失敗作」だったと歴史の彼方に押しやられた観のある社会主義ソ連。しかし、そこで生まれ育ち、人生のある部分を過ごした多くの人々が今もなおロシアや旧ソ連諸国で暮らしている。ソ連時代の残滓は、ロシアをはじめ独立国となった各国に残され、その社会に何らかの特徴を与え続けている。

社会主義思想に共鳴してプロパガンダ（政治宣伝）に協力した人も、何らかの疑問を持ちつつ生活するために働いた人も、日本とソ連（ロシア）の間に橋を架けるために一生懸命だった。政府公式発表を淡々と読み上げながら、間に挟み込む時候の挨拶や音楽などで、公式発表とはちよつと異なるニュアンスを伝えたり、時には検閲のスキを突いてビートルズを流したり、読者の手紙への丁寧な返信を続けたりと、さまざまな工夫と努力で日本の受信者の心をつかんでいった。

モスクワ放送はソ連崩壊後もロシア国営ラジオ「ロシアの声」として継続されたが（2017年に完全休止）、ソ連時代を通じてこの放送に関わった人たちにとっては、ソ連と社会主義の崩壊は自らの人生の一部を否定されたように感じる瞬間が何回もあったに違いない。1966年生まれの著者には元共産党員や社会主義シンパの複雑な心境を理解しきれない部分も当然あっただろう。しかし、その隙間を著者は生真面目で丹念な取材によって埋めていく。そしてたどり着いた結論が、本書末尾に書かれた3行だ。

「あの放送に関わった人たちは、夢ばかり見て、現実から逃避したドン・キホーテではない。試練や制約を乗り越え、肉声を通じて二つの国、そして世界に橋をかけようとした人たちだ。その努力がいつか報われる日が来ることを私は信じる。」（本書 251 頁）

さわやかな終わり方である。

ひるがえって現在の日本でも、ウクライナ戦争による「反ロシア」「嫌ロシア」の強い風圧の中、それでもこの国を理解するために交流を絶やしてはならないと、ロシア語教育やロシア研究、またバレエや音楽などの文化交流に地道に取り組む多くのロシア関係者がいる。私たち JIC もまた旅行・留学の分野で日ロ人的交流の土台を維持すべく、逆風に立ち向かっている。

プーチン大統領が 80%もの得票率で再選されたロシアにも、ウクライナ侵攻に疑問を持ち、戦争にとられた家族を早く返せと停戦和平を待ち望む人たちがいる。非友好国に指定されたとはいえ、日本語やお茶、折り紙、生け花など日本文化を変わらず愛好する人がいる。はるばる日本までサクラを見に来る観光客もいる。

本書は、それら異なる世界との間に「架け橋」をかけようとするすべての人への暖かいエールであると思う。(F)

<日ロ交流情報>

日露ビジネス交流会(4月5日)

19名が来日、東京・築地で開催

この4月、ロシアから19名のビジネス関係者が来日し、日露異業種ビジネス交流会が東京で開催されました。会場は築地の「すしざんまい・奥の院」。日本側からもほぼ同数の参加者が集まり、互いに関心のあるビジネス案件を話し合うなど、盛大な交流会となりました。

主催したのは元ハバロフスク日本センター所長の前田奉司さん。日本センターで若手ビジネスマンの育成、ロシアと日本およびアジア諸国とのビジネス交流にあたった経験を生かして、退任後も毎年2〜3回、ロシアからビジネス研修グループを日本に招へいし、交流を続けておられます。

日露ビジネス交流会の詳細は、18頁の樫本真奈美さんのレポートをご参照ください。

モスクワ芸術工科大学訪日団

東京・板橋で「日露美術展」開催



3月24日〜28日、東京板橋区の成増アートギャラリーにて「日露美術展」が開催されました。

モスクワ芸術工科大学の学生・卒業生とその家族ら33名が来日し、それぞれの小作品を展示、それに彫刻家で書道家の指田竹房さんが自身の書を添えました。引率したのは同大学のシャフィコワ・ラウシャニア教授で、一昨年10月に続いてこれが2回目の来日です。

一行は25日に新宿文化学園大学を訪問し大学交流の可能性を探るとともに、その後は青梅市の御岳山や鎌倉、京都にも足を伸ばしました。生憎、今年は桜の開花が平年並みの3月末〜4月初になったため、サクラをたっぷり見ることはできませんでしたが、春の日本観光を楽しんで、3月29日に帰国しました。

「日露美術展」の企画は、このあともまだ続くようです。次回の来日が楽しみです。

JICロシア語講座 交流会を開催

「やっぱり対面で話すといいですね」

小原 浩子 (JIC 大阪)

JIC のロシア語講座は 1990 年に東京で始まり、92 年から大阪でも開始、以来 30 年以上続いています。その間、担当者も替わり、現在は大阪在住の私が事務局を務めています。私が担当になってからすでに 10 年以上になりますが、毎年いろいろな動機でロシア語の勉強を始める受講生の皆さんをお迎えしています。

このロシア語講座をきっかけに、ロシア旅行に行ったり、ロシアへ留学したりした方が多数いらっしゃいます。今年も入門から初級、中級、上級まで 8 講座の新規受講生 (4 月開講) を募集中です。

コロナが始まった 2020 年から、ロシア語講座は Zoom を使ったオンラインとなり、受講生と先生はパソコンの画面越しでしか会えなくなりました。東京でも大阪でも対面で授業を行っていた時は、終了後の帰り道に雑談したり、たまに受講生同士と一緒に食事したりする交流もあったのですが、オンラインでは雑談もなかなかしづらくなりました。

コロナが感染症法の第五類に移行し、普通の病気になってから 1 年。先生と受講生の皆さんが対面で話ができる機会を作ってはどうかと思い、この 3 月に JIC ロシア語講座交流会を開催しました。オンラインの良いところは、どこに住んでいるかに関わらず、パソコンとネット環境さえあれば講座が受けられることであり、以前はタイのバンコクから受講していた人もいましたし、現在の受講生の皆さんも北海道から長崎まで幅広い地域にお住まいです。「交流会をやりましょう！」となっても遠方からではとても無理、実際に参加できる人は限られた方にならざるをえません。受講生の皆さんが全員集まれないのは少し気になりますが、それでも対面での交流は貴重であり、まずは一度、関西で試しにやってみることにしました。

3 月 3 日 (日)、京都のロシア料理カフェ・ヨージクで開いた交流会 (食事会) には、京都に住むナターリア先生と関西在住 7 名の受講生の皆さんに参加していただきました。コロナ前から参加しているベテラン (?) 受講生からつい最近ロシア語を始めたばかりの初級講座生まで、参加者のロシア語学習歴は様々、職業や年齢もバラバラですが、予めロシア語での自己紹介挨拶を考えてきてくださいとお願いしておきました。上級の方は難しい単語を使って、初級の方はメモを見



ながら、それぞれロシア語で自己紹介を行い、クラスが違って普段顔なじみでない人たちも、ナターリア先生からの積極的な声掛けもあり、すぐに打ち解けてよい雰囲気になりました。

今回の会場=カフェ・ヨージク店主の武井さんは、ハバロフスクのロシア人シェフからロシア料理を教えてもらったとのこと。ロシア料理には欠かせない生のディルやソバの実を使った本格的なロシア料理を出していただきました。おかげでナターリア先生も大満足でした。

今や英語でもロシア語でもオンラインのビデオ通話で学べる時代です。海外のロシア人とつないでの格安の個人レッスンもあります。そのような中でも、グループでロシア語を勉強する意義は何なのかと考えたとき、ロシアに様々な関心を持っている同好の人と知り合うことができ、ロシアやロシア語についてためらいなく話せる仲間ができることではないかと思います。「ロシア仲間」の広くゆるやかなつながりの場を作ることが JIC の役目でもあるのかなと、この交流会をやってみて改めて思いました。

次回は関東方面でもロシア語講座交流会をできればと考えています。受講生の皆さん、楽しみにしててください。

カフェ・ヨージク: <http://www.panographer.net/vojik/>

JIC ロシア語講座 2024 年開催要項:

<https://www.jic-web.co.jp/cgi-bin/blog/?c=detail&pk=3>

申込みは → <https://www.jic-web.co.jp/lesson.html>

2024 年 JIC ロシア語オンライン講座

クラス	曜日/時間	開始日
入門	火曜 19:30-21:00	4 月 16 日
初級①	金曜 19:30-21:00	4 月 19 日
初級②	水曜 19:00-20:30	4 月 17 日
中級①	火曜 19:00-20:30	4 月 16 日
中級②(文法・会話)	木曜 19:00-20:30	4 月 18 日
中級③(講読・会話)	水曜 19:30-21:00	4 月 17 日
中上級(講読)	木曜 19:30-21:00	4 月 18 日
中上級(会話)	土曜 10:00-11:30	4 月 20 日

途中入会も可能です。お気軽にお問合わせください。

シベリア出兵によるロシア人犠牲者と第二次大戦後のシベリア抑留者の慰霊と墓参の旅に、この冬 1 人で出かけた人がいます。山梨県で建築業を営む齊藤寛さんです。曹洞宗の僧籍を持つ齊藤さんは岐阜県・勝善寺の横山周導さんが長年イワノフカ村への慰霊と墓参の旅を続けてきたことを知り、今年 3 月 22 日のイワノフカ村慰霊祭に単身参加されました。

以下は、齊藤さんから寄稿していただいた訪問記です。（編集部）

初めてのロシア旅行 イワノフカ村訪問 「戦争犠牲者の慰霊と墓参の旅」

齊藤 寛 (株式会社大真・代表取締役)

私がアムール州イワノフカ村の慰霊祭に参列したいと思ったのは昨年の 9 月頃でした。岐阜県大垣市法永寺での集まりで「シベリヤ墓参と交流の旅」という小冊子を目にしたことがきっかけでした。それは、法永寺から遠くない揖斐川町に勝善寺というお寺があり、その住職である横山周導氏が代表をつとめた NPO が毎年おこなってきた慰霊の旅の報告書でした。私はこの中に書かれていたイワノフカ事件を通じた日本側とロシア側との交流のありかたに深い感銘を受けました。それは昨今の暗い世情の中で小さな明かりを見つけたような感覚でした。その後しばらくしてから横山氏と直接お話しをする機会を得、冊子に関する私のいくつかの質問に明確な回答をいただきました。99 歳の高齢とは思えない力強いはっきりとしたお声でした。

横山氏は冊子の中で「シベリヤ出兵の際の日本軍兵士の残虐行為に対するロシア人の反感を知り、日本人として恥じると同時に、将来日本とロシアが仲良くするためには、どうしてもこの謝罪と慰霊の旅を続けなければならないと思いました」と書かれております。私はこの一文に深く賛同し、横山氏ら関係者の高齢化やコロナの影響でこの数年は交流が行われていない状況をもったいないと思いました。特別なことはしなくとも、日本側の思いを抱いてロシアの皆さんの前に立つことは重要ではないかと思いました。焦点を 2024 年 3 月 22 日に行われるイワノフカ村慰霊祭への参列という一点にしぼり、準備にとりかかりました。

ロシアへの旅行はビザの取得からして大変そうだったので、一括して旅行会社に頼むことにしました。ネットを検索する中で出会ったのが JIC さんで、要望を伝えて見積もりをお願いしました。担当して下さったのがたまたま？大阪スタッフの小原さんで、その時私は気がつかなかったのですが、前述の小冊子の主要な部分の記事を書いたご本人で、横山氏



イワノフカ村慰霊碑の前で(左 2 人目が齊藤さん)

の旅行を長年手配した方でした。その経験を活かして今回いろいろと適切な配慮をしてくださり、旅行全体がスムーズに進み、現地に行ったときに大変助けられました。ロシアへの直行便がないのでどこで乗り継ぐのか、予算と時間調整も含めていろいろと検討していただきました。私自身も細かい準備をしたり日露関係の本を読んだりして、またたくまに 3 月に入り出発を迎えました。

<イワノフカ村 訪問日程>

3 月 18 日 成田でハルビン行きにチェックイン。ロシアへ乗り継ぐ乗客は書類を書くように指示され、カウンターで記入する。チェックインを済ませて搭乗し、ハルビン空港着。トランジットビザで入国しハルビン市内を観光。夕方国際線ターミナルに戻りハバロフスクに向けてあらためて出発。

3 月 19 日 深夜 1 時ハバロフスク到着。入国審査で別室でのインタビューとなる。私を含め数名がインタビューと書類作成をしたようだ。入国審査が終わり荷物を取ってロビーへ出て出迎いのドライバーとホテルに向う。私にとってのはじめてのロシアは凍てついたハバロフスクの夜の街だった。ホテルで仮眠して朝食をとり、荷物を預かってもらってチェックアウト。

地図を見ながらアムール川沿いを散策する。最初はそれ程寒くないように感じたが、時間がたつにつれ厳しい寒さであることがわかってきた。公園を歩いたり教会や博物館を見学したりする。地図を頼りに繁華街や市場などを歩く。市場の片隅でピロシキとお茶で簡単なお昼を済ませる。

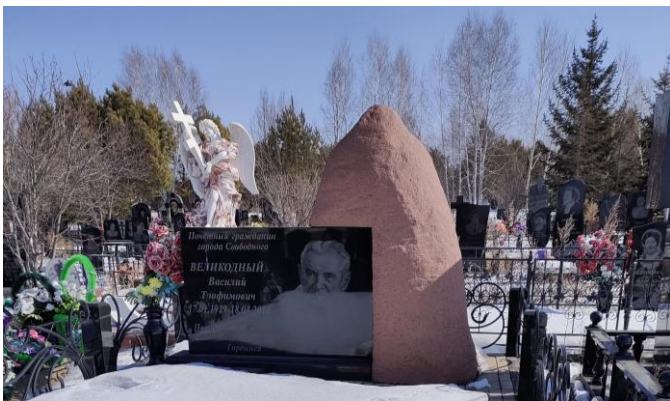
夕方、ホテルから荷物を持って駅に移動しシベリヤ鉄道に乗車する。コンパートメントで同室になったのはブラゴベシエンスク在住の 60 代半ばの男性で、横山周導さんの小冊子を見せると「この人のことはテレビで見たことがある」と喜

んでいた。

3月20日 朝、ブラゴベシェンスク着。ハバロフスクを少し離れたあたりから e-SIM が使えなくなったので、ホテルに移動するためにタクシーが呼べないのは誤算。JIC の資料に書いてあったホテルまでの案内に従い 駅前に来た 30 番バスに乗り移動、ホテル・ドゥルージバにチェックイン。

午後からアムール川沿いを散策する。スーパーに並ぶ食品は高品質で豊富で、車は日本よりも大型で高級なタイプが主流のようだった。街中では戦時下の影はまったく感ぜず、資源大国の余裕と底力を感じた。

3月21日 タクシーで郊外の通称「17km」と呼ばれている墓苑にワシリー氏のお墓参りに行く。墓苑には若い軍人の遺影を刻んだ新しい墓がかなりの数あり、墓苑の正面の一面を占めていた。何とも言いようのない悄然とした気持になる。事務所で場所を教えてもらってワシリー氏のお墓にたどりつく。氏は日本人墓参者のために尽力してくださったとのことで、横山氏も墓参の度にお参りしたようである。



ワシリー氏のお墓。周囲には真新しい墓石も

市内に戻って翌日の慰霊祭のために花束を買う。夕方、露日協会の職員から電話があり、アムール支部のマリーナさんも式典に同行したいと言っているのだが良いだろうかとの問い合わせがきたので了解する。

3月22日 朝 7 時 30 分にロビーに下りる。すでに通訳のロマンさん、露日協会アムール支部長のマリーナさん、ドライバーのサーシャさんが待っていた。挨拶をしてから車でイワノフカ村に移動する。快晴。ゼーヤ河に架かる巨大な橋を含めて高速道路が整備されて予定よりも早い時間に到着。

役場を訪ねてワレンチナ・オレシエフスカヤ村長をはじめ 3 人の地区代表者の方と合流し、お茶を飲みながら打ち合わせをする。横山氏に関する話がしきりに出て、ロシア側にとっても氏の存在は特別なことと感ぜられる。

時間になり露日共同追悼碑に移動。林の中の碑を中心とした広場に村民が続々と集まり式典開始。ロシア側は地区代表者 3 名が、こちらは私、マリーナさん、通訳さん 3 名が碑を背にして並び村民の皆様と向き合う。幼稚園の子ども達が真

正面に並んでいた。オレシエフスカヤさんの挨拶の後、ドゥーニン作「村の悲劇」の一部朗読、国歌、参加者全員で献花、地区代表の挨拶、国歌、解散という流れだった。



図書館で説明を受ける。右から 2 人目が露日協会マリーナさん

その後、2 名のご婦人の案内で村の公園、教会、博物館、図書館を見学する。博物館ではサモワールでお茶をいれてもらい、お菓子を食べながら談笑。図書館は政府の補助金を獲得して新築されており、規模は小さいながら設備が整っていた。製本の機材があり、館長さん自ら子供向けの絵本と本を執筆、印刷、製本したとのことで、お土産に 2 冊をサイン入りで頂戴する。規模の割にスタッフの姿が目立ち、図書館事業に力を注いでいることが伝わってきた。

ブラゴベシェンスクへ戻り食事。通訳のロマンさんから提案があり、翌日午後 3 時から日本語学校の生徒さんと交流会を開くことに決定。その後、ホテルに送ってもらい解散。

3月23日 午前中は荷造りやロシア語の練習をする。ホテルチェックアウト後、午後 1 時にマリーナさん、日本語教師のエカチェリーナさん、ドライバーのサーシャさんが迎えに来てくれる。

市内の日本人墓地にお参りし、読経とお米等を供養する。中国風の公園や教会を案内してもらい散策。この日はロシアへ来てはじめての曇りで雪が舞ったが、こんな天気も好ましかった。

午後 3 時に図書館の会議室で日本語学校の生徒達と合流する。30 人くらい集まったようで小中学生が半分という感じ。ブラゴベシェンスクに日本人が来ることは稀らしく、日本人を見るのはみんな初めてらしい。しかし、この街は中国が近いロシア自体が多民族国家なので私の存在は何の違和感もなかったと思う。ちなみに生徒達の日本語の発音は驚くほどにうまかった。その一方で漢字は難しいと異口同音にぼやいていた……。 「漢字が難しいのは日本人も同じです、辞書は手離せません」と答えた。時間いっぱいまで質疑応答をしたが、皆さんの質問が素朴なのが嬉しかった。最後に皆で写真を撮って解散。

早めの晩ご飯を済ませて、駅へ送ってもらってハバロフスクへ移動。



日本語教室の生徒たちとの交流会

3月24日 夜行列車のコンパートメントはビジネスマンと老齢の夫婦との4人だった。ご主人は物静かなしゃべらない方だったが、ご婦人はテキパキした世話好きで、いろいろ面倒を見てくれる。ロシアも日本も女性は無敵である。

午前中にハバロフスクへ到着、快晴だが強風。タクシーでインツーリストへ移動。荷物を預けて市内観光をする。午後にはタクシーで平和公園を慰霊訪問。

3月25日 美術館が月曜で閉館日だと判明しがっかりする。午前中は教会やアムール河沿いを散策。川面を覆っていた氷が融けて一部流れが見えていた。鳥の姿や声も増えていた。市場で赤いカーネーションの花束と白い菊の花束を買う。

ホテルをチェックアウトしタクシーで空港近くの日本人墓地を訪問。読経しお米等を供養する。1番のトロリーバスで空港に移動しチェックイン。出国手続きを終えて搭乗、ハルビンへ移動。バス、タクシーを乗り継いでホテルへ。

3月26日 昨夜ホテルまで運んでもらったタクシー運転手の許(シー)さんをお願いして、朝7時30分にホテルに迎えに来てもらう。旧日本軍731部隊博物館(正式名称;侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館)見学。その後、山梨県旧豊村開拓団入植地、ハルビン郊外阿城県四道河(スードーホー)村を慰霊訪問。タクシーで片道約2時間30分。

3月27日 ハルビンより成田に帰国。

* * *

最期に。イワノフカ事件を見つめることは、とても大切なことだと思います。この事件の内容や歴史そのものも、ゲオルギー元村長や横山氏をはじめとした日露両国の交流の姿も、とても大切なことを示唆していると思います。私は日本人としてイワノフカ事件を反省し懺悔し、忘れない。そのうえでロシアの皆様と向き合っていきたいと思います。

「太陽の恵みと、水と空気を共有するお互いは同胞である」

ゲオルギー元村長のこの言葉こそ、私たちが最優先するべきものと信じます。

募集開始!

第4回ロシア文学読書感想文コンクール 「私のトルストイ」

NPO 法人ヘラルドの会の呼びかけで始まった「ロシア文学読書感想文コンクール」が、今年も開催されます。

開催要項は以下の通りです。

【中学生の部】 字数 2000 字以内

トルストイの「幼年時代」「トルストイの民話」「戦争と平和」のうちから1つ選択。

【高校・大学生の部】 字数 3000 字以内

プーシキン、ゴーゴリ、ツルゲーネフ、トルストイ、ドストエフスキー、チャーホフの作品から1つ選択。

【応募期間】 2024年8月24日～9月23日

【応募方法】 原稿は word 横書き、メールで送付。件名は「第4回コンクール」。送付先; our.tolstoy+2024@gmail.com

【入賞発表】 2024年11月末/賞状と副賞(図書カード)

【主催】スラヴァ書房 【後援】NPO 法人ヘラルドの会

第4回 ロシア文学読書感想文コンクール

「私のトルストイ」

【中学生の部】
『幼年時代』『トルストイの民話』(代表的な創作民話集)
『戦争と平和』のうちから一つ選択。
字数:2,000字以内



【高校・大学生の部】
プーシキン、ゴーゴリ、ツルゲーネフ、トルストイ、ドストエフスキー、チャーホフの作品のうちから一つ選択。
字数:3,000字以内

【応募期間】
2024年8月24日(土)から9月23日(月)まで

【応募方法】

- ・原稿はwordなどの横書きで、our.tolstoy+2024@gmail.comにメールに添付して送ってください。件名は「第4回コンクール」にしてください。
- ・フォントは明朝体10.5ポイントで、一行の文字数や行数は自由です。ただし、一行ごとの改行はしないでください。
- ・最初に 1)選択した作品名 2)副題(無くても可) 3)氏名(ふりがな) 4)性別 5)郵便番号 6)住所7)連絡先電話番号 8)生年月日 9)学校名(ふりがな) 10)学年を明記。

【入賞発表】 2024年11末日までに入賞された本人にお知らせします。

各部の入賞者名に 1)賞状 2)図書カード(五千円)、その他の副賞(書籍)を贈呈。
・特に優秀と認められた入賞者には 審査員特別賞(図書カード1万円)を授与します。

*審査員(敬称略)
金沢 美知子(審査員長:日本トルストイ協会会長 東京大学名誉教授)
三浦 正己(日本トルストイ協会事務局長・理事)
木村 敦夫(日本トルストイ協会理事 文芸評論家)
伊東 一郎(早稲田大学名誉教授 ロシア文学者)
鈴木 芳子(翻訳家 ドイツ文学者)
江口 満(創価大学教授 トルストイ思想研究者)
阿部 昇吉(スラヴァ書房代表)

【主催】 スラヴァ書房
【後援】 NPO法人 ヘラルドの会

日ロ異業種交流会開催／4月5日、東京・築地

ビジネス文化交流で広がる民間外交の輪

榎本 真奈美 (同志社大学ロシア語講師)



4月5日、日ロ異業種交流会が築地「すしざんまい」奥の院にて盛大に行われた。

主催者は住友商事を退社後、ハバロフスク日本センター所長を務め、現在は株式会社 BUSINESS COORDINATION JAPAN 代表の前田奉司氏である。駐在時代に外務省、総領事館と協力し「ハバロフスク日本センター附属ビジネスマンクラブ」を設立、ビジネス研修や日本語教育の他、当時の大統領経営者養成プログラムの一環として毎年、ロシア全土から選ばれた優秀なビジネスパーソンを日本、台湾、韓国等に派遣してビジネスの発掘に努めてきた。

来日したのは19名のロシア人。住宅建設、乳製品製造、機械製造、穀物生産業、日用品製造、IT 関連企業など業種は様々で、その多くが経営者である。

訪日団のリーダーはハバロフスク出身のメルクーリー社 マキシム・シュヴェツ社長で、前田氏と20年来の親交がある。シュヴェツ氏は、経済・文化活動を通じた日本とロシアの関係活性化を目指して、上記ビジネスマンクラブの設立に積極的に取り組んだ人物だ。日本との取引を望むロシア人経営者を中心に希望者を募り、産業視察と観光を組み合わせたツアーを組み来日のサポートをしている。訪日スケジュールは実に充実している。産業視察はロシアで最も人気のあるアサヒビールの工場をはじめ、パナソニックセンター、東京ビッグサイト、ヘーベルハウス展示場、江戸切子専門店、盆栽美術館、製菓工場などをめぐった。

もちろん、日本文化を楽しむことも忘れない。東京は忠犬ハチ公と渋谷スクランブル交差点、浅草、お台場を観光、富士箱根で遊覧船に乗り、京都では竜安寺石庭でしばしの瞑想、鎌倉は大仏と海岸でのピクニックと、盛りだくさんの内容だ。何より今回は桜が咲く時期に合わせて日程を組んだのが功を奏し、様々な場所で満開の桜を愛でることができたため、一同大満足の様子だった。

前田氏を「父のような存在」と語るシュヴェツ氏。「これまで前田さんから、日本人の考え方やビジネスの作法など、たくさんのことを教えてもらった。それはロシア人にとってもとても大切だ。多くのロシア人が日本企業や事業主との取引

を望んでいる。橋渡しをすることで恩返しをしたい」と語ってくれた。

日ロ異業種交流会は、株式会社喜代村「すしざんまい」の社長、木村清氏の挨拶で幕を開け、お馴染みの両手を広げる「すしざんまいポーズ」で各々が木村社長と写真を撮り大きく盛り上がった。ロシアとも海産物の取引がある木村社長は、「今日はロシアから来てくださった皆さんのために、格別にご美味しいマグロを用意しました。どうぞお楽しみください」と、笑顔でもてなした。「マグロ外交で世界を平和に！」をモットーに掲げる木村社長は、双方の国が互いに潤うような経済活動の重要性を説き、それが平和につながるとして世界各国をとびまわっている。



「すしざんまい」木村清社長(中央)の挨拶で幕開け

日本側は総勢18名の参加者が集まった。日本ウラジオストク協会と湘南ロシア倶楽部の協力で、元大手商社勤務のビジネスコンサルタント、各種貿易業務に携わる方々、新聞記者、IT 専門家、日本語教師、ロシア語を学ぶ学生まで、年齢、職種ともに多種多様な顔ぶれが集まった。

この異業種交流会の良いところは、これまでロシアと取引がなくても、ロシア語がわからずとも気軽に参加できることだ。取引の要望を伝えれば、これまで対ロビジネスの最前線で活躍してきた猛者たちが自らの人脈を生かしてアドバイスをしたり、ロシア側との橋渡しをしてくれる。もちろんロシ

ア人参加者からも熱心な助言がその場で飛び交う。交流会の翌日からすぐに条件交渉が始まった案件もあり、活発な様子うかがえる。



前田さんから研修修了書を授与される参加者

参加者の仲下尚治氏（貿易会社経営）は、経済制裁の影響でロシアからの送金やモスクワに商品を輸送するロジスティクスに難点があったものの、昨年末から状況が大きく変わったと言及した。「日系のロシア銀行 SBI BANK からの円送金が容易に行えるようになったこと、ウズベキスタン航空が毎週金曜日、成田発、タシケント経由モスクワまでのフライトを運行するようになったためです。日本政府の経済制裁は今後も続くことが予想され、日本とロシア間のビジネス環境は厳しいですが、私はそんな環境だからこそ、ビジネスを途絶えさせてはならないと思っています」と力強く語った。

ロシア側参加者のアナスタシアさんは「ロシア人と日本人にはたくさんの共通点があると思います。私たちは経済活動を通して、お互いのことをもっとよく知り、よい協力関係が築けるとと思っています」と話した。

主催者の前田氏は「今回の訪日ビジネスマン達は特に、何とか新しいビジネス発掘のきっかけをつかみたいという意欲に満ちた人が多い。すでに日本側と商談の手がかりをつかんだ人もいます。今回も様々な分野で交流が生まれることを祈っている」と締めくくった。

まさに民間外交の最たるものである。今後もこの輪が広がり続けることを願ってやまない。



ロシア文化フェスティバル2024 今年前半のプログラム

オープニングコンサート

日時；4月22日(月) 18:00 開場 18:30 開演

会場；紀尾井ホール（東京都千代田区）

入場料；5000 円（全席指定）

出演；レフ・ジュラルスキー（クラリネット）

アンドレイ・タラヌハ（パーカッション）

エリザベータ・クリュチェリョーバ（ピアノ）

中村 初恵（ソプラノ）

松田 華音（ピアノ）

前橋 汀子（ヴァイオリン）

ロシアの新星コンサート 2024

オープニングコンサートで来日する新進気鋭 3 名のソリストによるコンサート

4月23日(火) 横浜／神奈川県民ホール小ホール

4月24日(水) 千葉／市川市文化会館小ホール

4月25日(木) 埼玉／さいたま市文化センター小ホール

いずれの会場も 18:00 開場、18:30 開演

入場料；3000 円（全席指定）

モスクワ芸術座日本公演 2024

文豪チェーホフの隠れた傑作『決闘』を上演

日程；5月28日(火) 17:30 開場、18:00 開演

5月29日(水) 17:30 開場、18:00 開演

5月30日(木) 17:30 開場、18:00 開演

5月31日(金) 12:30 開場、13:00 開演

会場；東京・かめありリリオホール（JR 亀有駅南口）

入場料；8000 円（全席指定）

ソ連映画祭

プーシキン生誕 225 周年記念映画祭

日時；6月13日(木) 12:30 開場、13:00 開演

会場；東京・浜離宮朝日ホール（小）

上映作品；「サルタン王物語」（1966 年／86 分）

「ルスランとリュドミラ」（1972 年／140 分）

入場料；1000 円（1 日券／全席自由席）

ムソルグスキー生誕 185 周年記念オペラ映画祭

日時；6月21日(木) 12:30 開場、13:00 開演

会場；東京・浜離宮朝日ホール（小）

上映作品；「ボリス・ゴドゥノフ」(1955 年/110 分)

「ホヴァンシチナ」(1959 年/140 分)

入場料； 1000 円 (1 日券/全席自由席)

ムソルグスキー生誕 185 周年記念コンサート

日時； 7 月 1 日(月) 18:00 開場 18:30 開演

会場； 銀座・王子ホール (東京都中央区)

出演； ミハイル・カンディンスキー (ピアノ)

ヴィタリー・ユシュマノフ (バリトン)

藤間 蘭黄 (日本舞踊)

山本 隆之 (バレエダンサー)

木曾 真奈美 (ピアノ)

問合せ先； ロシアン・アーツ

TEL； 03-5919-1051 (平日 11:00 - 17:00)

E-mail； russian-arts@e-mail.jp

◆◆編集後記◆◆

▼本号は、下斗米伸夫先生の講演録をメインに、日ロ交流情報を集めました。▼3 年目に入ったウクライナ戦争は、昨年 6 月から始まった反転攻勢が失敗に終わり、膠着状態に陥っています。欧米諸国の「支援疲れ」やイスラエル軍のガザ地区での残虐行為などとも相まって、国際政治の構図は大きく変わろうとしています。下斗米先生によると、ウクライナでもアメリカでもいくつかの変化が現れており、今後、ウクライナ戦争の停戦和平に向けた圧力が次第に強まっていくものと期待されます。1 日も早い停戦の実現を願うばかりです。▼コロナとウクライナ戦争のダメージは深刻ですが、JIC は辛抱強いスタッフと多くの協力者の皆さんに支えられて、再建への道を歩んでいます。困難な時こそ明るく元気に、日ロの人的交流・文化交流を維持し将来拡大するために、頑張り続ける決意です。(F)

JICのロシア語留学・研修

35 年間の実績「だから、JIC のロシア語留学

JIC ロシア語留学研修は、JIC 国際親善交流センターが日本で最初に旧ソ連・ロシアの諸大学と直接契約により開始した私費留学システムです。この 35 年間で JIC がロシアに送り出した留学生は長期・短期合わせて 4,500 名以上にのぼります。

安心の現地アフターケア

留学中はできる限り自分のことは自分でやっていただくのが語学力上達の道です。しかし、一人ではどうしても解決できない大学との交渉ことや、緊急事態の際の連絡対応など、留学中の皆様をバックアップするために、JIC では各受入機関と緊密な連絡体制を整えています。

ロシア語長期留学 9 月生・募集中



オンライン
相談 受付中!

期間：2024 年 9 月 1 日より 10 ヶ月

締切：2024 年 6 月 14 日

モスクワ国立大学 984,000 円(授業料 10 ヶ月)

サンクト・ペテルブルグ国立大学 1,039,000 円(授業料 10 ヶ月)

ゲルツェン教育大学 908,000 円(授業料 10 ヶ月)

ウラジオストク極東連邦大学 430,000 円(授業料 10 ヶ月)

ミンスク国立言語大学 422,000 円(授業料 10 ヶ月)

※上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金および取得手数料などががかかります。

ロシア以外の国でのロシア語留学の手配も可能です！(中央アジア、バルト諸国など)

◆JIC ロシア留学デスク◆

電話またはメールでご連絡ください。

東京事務所 平日 9:30-16:30 03-3355-7294

※留学相談はオンラインで行っております(要 事前予約)